

水戸ノ心越禪師ハ唐僧ナリシニ、江戸ノ藥舗ニテ到タル枳實ヲ見テ曰、吾邦ニテハ穰ヲ帶テ製シタルヲ枳實トシ、穰ヲ去タルヲ枳殼トス、コレ枳殼ノ製ニシテ、枳實ニハ非ズト云ヘリ、此說蘇恭ノ說ニ合ヘリ、

〔紀伊續風土記 物産 六上〕枳本草、本草和名、醫心方、新撰字鏡、延喜式、並に加良多知と訓するは誤なり、

享保年中、漢土より種子を來す、今官園に多し、人家にも稀に栽う、

〔萬葉集十六〕有由緣并雜歌忌部首詠數種物歌一首名忘失也

枳棘原カヲチノム、ラカリソク除會氣、倉將立、屎遠麻禮、櫛造刀自、

〔三代實錄五十五〕仁和三年五月十四日丁亥、是日始置守韓橘者二人、以山城國徭丁充之、

枸橘

〔大和本草十二〕カヲチ、ナカヲチ枸橘 本草、一名臭橘、多刺、人家多收種爲藩籬、今案和名カラタチト云物ナリ、葉細

ナリ、其木ハリ多キ故、人家ウヘテ籬トシ、盜ニ備フ、是ヲジヤケツイバラト訓ズルハ誤レリ、ジヤケツイハ雲實ナリ、枸橘ノ實ノ形ハ、蜜橘ノ如クニシテ、臭ク酸シ不可食、筑紫ニテグズト云、昔ヨリ

國俗アヤマリテ、是ヲ枳殼枳實トシテ藥ニ用ユ、非也、世醫習而不察ナリ、本艸ヲヨク考ヘテ、其是非ヲ知ベシ、眞枳實枳殼年々カラヨリ多クワタル可用、日本ノ臭橘ハ不可用、枳殼モ日本ニアリ

トイフ、臭橘ヲ垣根ニウエテ盜賊ヲフセグベシ、熟シタル實ヲ取、皮ヲ去、ナカゴ共ニ土中ニウヘ、日ヲ掩ヒ、又ワラアクタヲ上ニ置ベシ、生ジヤスシ、生ジテ後ワラヲ去ベシ、上ノ日ヲホヒハ、先其

マ、置ベシ、少長スル時ホリテ垣ニウユルニ、間五寸ヅ、置テシゲクウフベシ、如此ナラザレバ

キビシカラズ、ナカゴヲ去リ、核ヲトリテウフレバ生ジガタシ、

〔和漢三才圖會八十四〕灌木枸橘 臭橘 俗云介須

按枸橘即枳之種類、而樹葉實與枳無異、但實小堅、青綠色、深於枳、充之小枳實、大非也、故及贅言、

〔重修本草綱目啓蒙二十五〕灌木枸橘 カラタチ、ゲズ筑前、ジヤキチ讚州、ジヤキツ阿州、ジヤ

キビシカラズ、ナカゴヲ去リ、核ヲトリテウフレバ生ジガタシ、

〔和漢三才圖會八十四〕灌木枸橘 臭橘 俗云介須

按枸橘即枳之種類、而樹葉實與枳無異、但實小堅、青綠色、深於枳、充之小枳實、大非也、故及贅言、

〔重修本草綱目啓蒙二十五〕灌木枸橘 カラタチ、ゲズ筑前、ジヤキチ讚州、ジヤキツ阿州、ジヤ